

## 成果や課題等の分析対象事業の候補について

1	事例 ～ICT を活用した市民協働による維持管理～ 「みっけ隊アプリケーション」	所属 建設局土木管理課	開始年度 平成 28 年度
<p><b>市民参加推進計画における位置付け</b></p> <p>基本方針 1 施策 2 市民と市職員の対話の推進            施策 3 市民と多様な主体が対話する機会の充実</p> <p>基本方針 2 施策 7 市政運営のあらゆる過程における参加の機会の提供            施策 8 市民の手ごたえにつながる市政への参加の結果の公表            施策 9 あらゆる市政分野での市民と京都市の知恵と力を最大限いかす協働の推進</p>			
<p><b>事業概要</b></p> <p>○ 道路等の土木施設に損傷があった場合、これまでは市民からの通報手段は電話が主であったため、正確な位置や現場状況の把握が難しく、現場確認に時間を要することがあった。また、危険な事案を優先して対応するため、除草や清掃作業といったものが後回しにならざるを得ない状況であるが、その優先順位の考え方が市民には見えていなかった。</p> <p>○ このような課題に対し、市民から通報が簡易になり、また、優先順位付けや経過の見える化を行うことで、市民にも道路等を守る取組への理解を深め、市民でも対応可能な作業は市民の力を活かせるような新たな市民協働の仕組み作りを目的にアプリを開発した。</p> <p>(アプリの主な機能)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道、川、公園等で損傷箇所を発見したら、簡単操作で情報を土木事務所に送信できる。</li> <li>・投稿内容や事務所の処理状況等を地図画面や一覧画面から確認可能</li> <li>・京都市から「みっけ隊員」の皆さんへ、調査協力をお願いしたい内容をミッションとして発信</li> </ul> <p>○ 開発に当たっては、右京区で3回、伏見区3回、合計6回の市民参加型のワークショップを行い、市民意見を反映させた。</p>			
<p><b>市民参加の観点での特徴など</b></p> <p>○ 市民と協働でシステムを構築することにより、親しみやすく、使い易く、楽しみながら維持管理に参加してもらえるアプリとなる工夫を行った。</p> <p>(例) 損傷箇所の投稿だけでなく、市民の皆様が日頃から取り組まれている清掃や草刈り等の自主活動を広く共有できるよう、「私たちがやりました」投稿機能を付加</p> <p>○ これまで市民との協働という観点を取り入れにくかった分野において、企画段階から市民との協働を進めた。</p> <p>○ 過去に区役所等で市民参加に係る業務を経験した職員の発案により市民参加型のワークショップを実施。ワークショップには土木施設の維持管理について市民参加を進めるための職員プロジェクトチームも参加することで、職員が市民感覚（意見）を直接聞く機会が創出できた。</p>			

2	事例 京都市景観市民会議	所属 都市計画局景観政策課	開始年度 平成 23 年度
<p><b>市民参加推進計画における位置付け</b></p> <p>基本方針 1 施策 3 市民と多様な主体が対話する機会の充実</p> <p>基本方針 2 施策 7 市政運営のあらゆる過程における参加の機会の提供</p> <p>                  施策 8 市民の手ごたえにつながる市政への参加の結果の公表</p> <p>                  施策 9 あらゆる市政分野での市民と京都市の知恵と力を最大限いかす協働の推進</p>			
<p><b>事業概要</b></p> <p>○ 京都市では、歴史都市・京都にふさわしい景観の保全、再生及び創造を目指し、平成19年9月から「新景観政策」を実施している。</p> <p>景観政策が市民生活や建築活動、経済活動などに与える影響や効果を検証し、市民や事業者に広く周知することにより、景観政策への更なる理解と協力をいただくとともに、継続的に政策を進化させていくことを目的に、平成22年度に「景観政策検証システム」を構築した。</p> <p>○ このシステムは、景観政策のPDCAサイクルのC（チェック）に当たる場として位置付けられており、①景観政策を検証し、その結果を「京都市景観白書」として作成して市民等に周知する仕組み、②市民や事業者等と意見交換を行う仕組み、により構成されている。</p> <p>○ 「京都市景観市民会議」は、景観政策の検証結果を市民に評価していただくとともに、課題抽出やその課題の改善に向けての意見交換を行うため、平成23年度から開催。</p> <p>○ 平成27年度京都市景観市民会議</p> <p>① 概要</p> <p>「営みが織りなす京都の景観～住んでよし、働いてよし、訪れてよしの景観づくり～」をテーマに、市民公募委員や専門家等によるワールドカフェ方式のワークショップ等を実施。</p> <p>② 開催日時、場所</p> <p>ア 開催日時 平成28年3月20日（日）午後0時30分～午後4時</p> <p>イ 場 所 ひと・まち交流館京都 地下1階</p> <p>京都市景観・まちづくりセンター ワークショップルーム1・2</p> <p>③ 次第</p> <p>第1部 基調発表・講演（門内輝行京都大学大学院教授）</p> <p>第2部 ワークショップ</p> <p>第3部 全体会議（総括）</p> <p>④ 参加者</p> <p>景観市民会議委員31名（うち、市民公募委員17名）、傍聴者30名</p>			
<p><b>市民参加の観点での特徴など</b></p> <p>○ 政策のPDCAサイクルがシステムとして構築されていて、C（チェック）において、市民等と意見交換を行っている点が特徴的である。</p> <p>○ 今年度は、「歴史的景観の保全に関する取組方針（案）」のパブリック・コメントの時期に合わせて、「歴史と文化を未来につなぐ京都の景観づくり ～残せるか？お寺・神社のある風景～」をテーマに開催することで、より具体的な意見交換を行える場とする。</p>			

3	事例 京（みやこ）の水カフェ	所属 上下水道局総務課	開始年度 平成 25 年度
<p><b>市民参加推進計画における位置付け</b></p> <p>基本方針 2 施策 7 市政運営のあらゆる過程における参加の機会の提供            施策 9 あらゆる市政分野での市民と京都市の知恵と力を最大限いかす協働の推進</p>			
<p><b>事業概要</b></p> <p>○ 上下水道局においては、水道水のおいしさとクオリティの高さ（安全・安心，低価格，環境にやさしい）をPRするため，平成25年度から体験・体感型イベント「おいしい！大好き！京（みやこ）の水キャンペーン」を展開している。</p> <p>○ その一環として，期間限定で水道水を活用したメニューを安価で提供するカフェをオープンしている。</p> <p>○ 平成26～27年度は，龍谷大学と協働して実施。</p> <p>○ 平成28年度は，京都光華女子短期大学部ライフデザイン学科学生団体と協働して実施。</p> <p>＜平成28年度の予定＞</p> <p>「京（みやこ）の水カフェ in Zoo」</p> <p>平成28年度は，京都市動物園内に期間限定でオープン。学生の感性をメニューや店舗内装に活かして，来店者に様々な角度から水道水のおいしさとクオリティの高さを実感していただく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開店日：9月17日（土）～25日（日）※9月20日（火）の休園日を除く。</li> <li>・開店時間：午前10時～午後4時30分</li> <li>・メニュー（全て水道水を使用）            グリーンティー，アイスコーヒーなど全て100円（全て水道水を利用）。            その他動物園にちなんだメニューを考案中。</li> </ul>			
<p><b>市民参加の観点での特徴など</b></p> <p>○ 事業の企画から実施までを市民（学生）と協働で行っている点が特徴的である。</p> <p>○ 学生の主体性を尊重することにより，柔軟なアイデアが生まれ，より良い事業となるとともに，学生にとってもやりがいや学びの場となるなど，学生と京都市の双方にとってメリットがある事業である。</p>			

4	<b>事例</b> 中京区役所とイチバンボシギフトとの協働事例	<b>所属</b> 中京区役所地域力推進室	<b>開始年度</b> 平成 28 年度
---	------------------------------------	--------------------------	-------------------------

**市民参加推進計画における位置付け**

基本方針 2 施策 9 あらゆる市政分野での市民と京都市の知恵と力を最大限いかす協働の推進

**事業概要**

○ 「イチバンボシギフト実行委員会」と「パートナー企業」から、中京区役所に「サンタパートナー」にならないかという持ちかけがあったため、地域力推進室が中心となり、区役所との連携の方法や、それぞれの役割分担、ギフト BOX の内容などを 3 回のワークショップにより決定し、実現した。

<参考：イチバンボシギフトについて>



○ ワークショップは、対話を通じて課題解決やアイデアの創出、多様なセクターの連携によるアクションにつなげるための「中京クーチャーセンター」という事業の一環として実施。

※「中京クーチャーセンター」は市民のまちづくり活動を活性化させるための事業であるが、今回は、主にイチバンボシギフト実行委員会等と区役所との連携の方法を考える手法として用いた。

**市民参加の観点での特徴など**

○ 市民（企業）からの申し出に対し、実現するために、対話を重ねた。対話は、ソーシャルビジネス支援の専門家などを交えて行った。

○ 区役所には様々な部署があるが、どの部署とどのように連携することが効果的かなどを地域力推進室が窓口となり進めたことで、セッション（協働）をうまく進めることができた。

※ この事例の成果や課題を分析する場合は、「中京クーチャーセンター」の仕組みを分析するのではなく、市民（企業）からの提案を区役所がどう受け止め、地域力推進室が各部署とイチバンボシギフト実行委員会等との中継ぎをしながら、どのように協働した取組を実現したかに焦点を当てて分析を行う。（中京クーチャーセンターは始まったばかりの事業であるため）

5	事例 市民協働型ファシリテーション研修	所属 行財政局人事課	開始年度 平成22年度
市民参加推進計画における位置付け 第5章 取組2 職員の市民参加推進に対する意識の向上と能力開発の計画的な実施			
事業概要 ○ グループ活動や業務会議などで実践するための合意形成や問題解決の技法であるファシリテート能力の習得により、職員の対外折衝力の向上を図るとともに、市民との協働による事業の推進にいかすことを目的に実施している。 ○ 平成28年度は1.5日+振り返り0.5日（詳細は下記参照）※参加者16名			
市民参加の観点での特徴など ○ 市民との協働する際に必要性の高いファシリテーション研修を約2日間にわたり実施している。  ※ この事例の成果と課題を分析する場合には、分析結果を参考にできるのは、人事課と市民協働推進担当などに限られることになる。 ※ 分析する場合、過去の受講者数人に対してヒアリングを行う必要があると思われる。			

## 28年度市民協働型ファシリテーション研修【課長補佐級以下職員対象】

ねらい	職場における政策、事業及び課題等に提案を行うリーダーを養成するとともに、職員の「聴く力」、「伝える力」の向上を図り、市民協働型の事業推進に生かす。	
日時	1日目 平成28年7月29日（金）午後1時55分から午後5時15分まで 2日目 平成28年8月5日（金）午前9時から午後5時15分まで フォローアップ 平成28年10月21日（金）午後1時55分から午後5時15分まで	
研修プログラム	<1日目> ①オリエンテーションと講義 ・ファシリテート能力とその技法 <2日目> ①グループでの理論・観察（演習1） ・議論のプロセスとファシリテータの機能を確認 ②ファシリテート実践（演習2） ・ロールプレイによるワークショップ ③ファシリテータの機能	<フォローアップ> ①ワークショップの振り返り ・研修効果の確認 ・身に着けた能力の確認 ②グループディスカッション（演習3） ・研修後に現れた効果、現れなかった効果や実践における課題等を共有する
研修講師	龍谷大学 土山 希美枝氏、深尾 昌峰氏、村田 和代氏、ファシリテータ6名	
講師からのメッセージ	対話と議論で「つなぎ・ひきだす」ための理念と技法を、実際に市民の方にも参加いただいたワークショップを通して学んでいただきます。	